

東京YMCA

2023

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

外国にルーツを持つ子どもたちの支援プログラムを開始

YMCAの基本 ―体験と居場所―

「体験格差」「居場所」という言葉をニュースでたびたび耳にするようになりました。子どもの頃のさまざまな体験が人生の基盤となり、大人になった時の意欲やコミュニケーション力の差となる。それが多くの調査で明らかになっています。一方で、YMCAは、キャンプを開始した100年も前から「learning by doing（なすつて学ぶ）」を基本として「体験」を大切に、家庭や学校以外の「居場所」としてあり続けてきました。

YMCAが持つ 力を生かして

今年度、西東京センターと南センターは「居場所事業」として新たにスタートしました。

新たな取り組みを考えるにあたり、国立・世田谷地域の人口統計を調べ、いろいろな団体を訪

問しました。自治体も市民団体も居場所づくりに力を入れているこれらの地域で、新たな居場所を事業として考えることは非常に困難でした。同時に、多くの方々と話す中で、YMCAに期待されていることやYMCAが持つ強みを知り、内部の連携を生かすことによる新たな可能性も見えてきました。そのような中で、拠点という概念ではありませんが、YMCAが持つ力を生かせる可能性を感じたものが、外国にルーツのある子どもたちとその家族への支援です。それは決して大きなニーズではありませんが、制度や支援が十分ではなく、また、支援があっても必要な人に届いていないのが現状です。

工夫と連携

彼らに私たちのプログラムを伝えることは簡単ではありませんでした。YMCAや国立市学校支援センターなどのさまざまな機関と協力し、また内部にある力を利用しながら、この夏は「サマーキャンプ」「宿題サマースクール」を実施しました（以下記）。実施に至るまでには、今までにはない工夫も必要でした。通常の広報や受付システムでは、彼らはアプローチできません。やさしい日本語を用い、システムの利便性よりもできるだけ直接お会いする方法をとりました。持ち物の説明一つをとっても、実物を見せながら日本語と英語で説明するなど、多くの時間も費やしました。

3つの壁

日本で暮らす外国にルーツを持つ方々は、生活に必要な情報を得ることができない「言葉の壁」、母国とは異なる法律や教育システムなどに戸惑う「制度の壁」、文化や生活習慣の違い、コミュニケーション不足によって誤解や偏見が生まれる「心の壁」を抱えていると言われています。各地域で「日本語の支援」がありますが、会話ができる生活言語はもちろん、授業についていくための学習言語を身につけるには十分ではありません。そのため、日本語がわからず授業中にただ座っているだけの子どもや、わからない中で日々学校に

活動に必要な 相互理解

「知らなかったことや気づかなかったことが、まだまだたくさんある。」この夏、プログラムを実施して感じたことです。外国にルーツを持つ方々を支援する活動には、「違い」を受け入れ、お互いに積極的に相手を理解しようとする姿勢が必要です。それゆえに、この活動は、関わる全ての人間にとって「みづかる」「つながる」「よくなっていく」ことだと信じています。

日本語、英語、イラストによる持ち物説明



（居場所事業MD 江尻明子）

サマーキャンプ

日本語での意思疎通に難しさを感じる子どもたち

最初の、確実な共通言語がない中、コミュニケーションで行き詰まる場面がありました。言葉よりボールを追いかけて、力を合わせてカヌーを漕ぐうちに自然と友だちの輪が広がりました。言葉よりも共通の体験を通して仲間意識が作られていくのがキャンプの良さです。しかし、一方で、子ども同士でも、子どもとリーダーの間でも、言葉の壁による意思疎通の困難が悩みとなり、夜のリーダー会ではコミュニケーションの取り方について話し合いました。



皆で力を合わせたビッグカヌー

翌日、リーダーが「日頃自分が感じている、言葉の壁による疎外感や諦めの気持ちを友だちに味わわせたいために、母国語で話したこともできる身に対して大きな成長だけ皆で共有しよう」と遠慮せずに自分から関わるようにしよう」と伝えると、皆の気持ちに少しづつ変化が生じ、協力やチャレンジの姿勢が見え始めました。そして、キャンプとしての一体感が生まれ、夜のキャンプファイヤーは大変盛り上がり



雨の合間に富士山が見えて大喜び

赤△三角

1つの重大な事件事故の裏には29件の小さな事件・事故があり、その裏には300件のミスが存在するというハインリッヒの法則があります。

私たちは、日々、その小さなミスを見逃さない事ばかりに目が行き、本来の宝探しが疎かになりがちです。▼子どもの課題と向き合う前に私たちが優先して見つけたものの、それは「個々の良いところ」です。「お互いの良いところを見つけてやる」を意識のみにだけに留めず、「ニヤリグッド」として日々の業務の中で広く周知・共有したいものです。▼大きな事故やトラブルにつながる小さなミスを「ヒヤリハット」と言うのに対し、ホッと笑顔になる瞬間を見逃さず共有・周知するのが「ニヤリグッド」です。自分の行動・言動が褒められ、認められ、周りのともだちやスタッフから貰う温かいことば掛け。子どもたちにとってそんなプラスのフィードバックが大切なのです。そんなことを日々、皆で見つけ合い伝え合えば良いのです。▼とても幸せな出来事

宿題サマースクール

「夏休みの宿題を受け取ったものの、どうしてよいかわからない」との声があり、「宿題サマースクール」を計画しました。

校がスタートするという時期でしたが、1学期の終業式で受け取っただろう書類をそのまま持ってくる姿は、彼らが抱えている課題が垣間見えた瞬間でした。3時間ほどで、高年生のボランティアと一緒に夏を振り返りながら「夏休み一行日記」を書いた



（芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ AD上瀬徹也）

サマープログラム報告

たくさん子どもたちが参加してくれました！

一緒に笑い、大騒ぎした大切な仲間たち。いつもより勇気を出したアクティビティー。
一人ひとりにとって、かけがえのない体験に溢れた“特別な夏”となったことを願います。

キャンプ／デイキャンプ



英語／英語サマースクール



水泳／プールサマースクール



海外キャンプ

『ダイナミックサマー』再開

たくさんさんのチャレンジが自信へと変わる

今夏、アメリカの伝統的なサマーキャンプを体験する『ダイナミックサマー』を3年ぶりに再開。6月下旬から8月下旬にかけてハワイ、ニューヨーク、ボストンにある3つのYMC A キャンプに合計29人の子どもたちが参加しました。

子どもたちは、初めはホームシックや文化の違い、言語の壁を感じて戸惑うこともありましたが、時間が経つにつれて、英語が上手に喋れなくとも、なんとなく会話の雰囲気を感じてコミュニケーションを取り始めたり、「Hi」と声を掛け合ったり、ハイタッチをしたり、名前を呼んで笑いかつたり、いつの間にか仲良くなっていきました。子どもたちの適応する『ダイナミックサマー』を3年ぶりに再開。6月下旬から8月下旬にかけてハワイ、ニューヨーク、ボストンにある3つのYMC A キャンプに合計29人の子どもたちが参加しました。

子どもたちは、初めはホームシックや文化の違い、言語の壁を感じて戸惑うこともありましたが、時間が経つにつれて、英語が上手に喋れなくとも、なんとなく会話の雰囲気を感じてコミュニケーションを取り始めたり、「Hi」と声を掛け合ったり、ハイタッチをしたり、名前を呼んで笑いかつたり、いつの間にか仲良くなっていきました。子どもたちの適応する『ダイナミックサマー』を3年ぶりに再開。6月下旬から8月下旬にかけてハワイ、ニューヨーク、ボストンにある3つのYMC A キャンプに合計29人の子どもたちが参加しました。

子どもたちは、初めはホームシックや文化の違い、言語の壁を感じて戸惑うこともありましたが、時間が経つにつれて、英語が上手に喋れなくとも、なんとなく会話の雰囲気を感じてコミュニケーションを取り始めたり、「Hi」と声を掛け合ったり、ハイタッチをしたり、名前を呼んで笑いかつたり、いつの間にか仲良くなっていきました。子どもたちの適応する『ダイナミックサマー』を3年ぶりに再開。6月下旬から8月下旬にかけてハワイ、ニューヨーク、ボストンにある3つのYMC A キャンプに合計29人の子どもたちが参加しました。

子どもたちは、初めはホームシックや文化の違い、言語の壁を感じて戸惑うこともありましたが、時間が経つにつれて、英語が上手に喋れなくとも、なんとなく会話の雰囲気を感じてコミュニケーションを取り始めたり、「Hi」と声を掛け合ったり、ハイタッチをしたり、名前を呼んで笑いかつたり、いつの間にか仲良くなっていきました。子どもたちの適応する『ダイナミックサマー』を3年ぶりに再開。6月下旬から8月下旬にかけてハワイ、ニューヨーク、ボストンにある3つのYMC A キャンプに合計29人の子どもたちが参加しました。

子どもたちは、初めはホームシックや文化の違い、言語の壁を感じて戸惑うこともありましたが、時間が経つにつれて、英語が上手に喋れなくとも、なんとなく会話の雰囲気を感じてコミュニケーションを取り始めたり、「Hi」と声を掛け合ったり、ハイタッチをしたり、名前を呼んで笑いかつたり、いつの間にか仲良くなっていきました。子どもたちの適応する『ダイナミックサマー』を3年ぶりに再開。6月下旬から8月下旬にかけてハワイ、ニューヨーク、ボストンにある3つのYMC A キャンプに合計29人の子どもたちが参加しました。

子どもたちは、初めはホームシックや文化の違い、言語の壁を感じて戸惑うこともありましたが、時間が経つにつれて、英語が上手に喋れなくとも、なんとなく会話の雰囲気を感じてコミュニケーションを取り始めたり、「Hi」と声を掛け合ったり、ハイタッチをしたり、名前を呼んで笑いかつたり、いつの間にか仲良くなっていきました。子どもたちの適応する『ダイナミックサマー』を3年ぶりに再開。6月下旬から8月下旬にかけてハワイ、ニューヨーク、ボストンにある3つのYMC A キャンプに合計29人の子どもたちが参加しました。

子どもたちは、初めはホームシックや文化の違い、言語の壁を感じて戸惑うこともありましたが、時間が経つにつれて、英語が上手に喋れなくとも、なんとなく会話の雰囲気を感じてコミュニケーションを取り始めたり、「Hi」と声を掛け合ったり、ハイタッチをしたり、名前を呼んで笑いかつたり、いつの間にか仲良くなっていきました。子どもたちの適応する『ダイナミックサマー』を3年ぶりに再開。6月下旬から8月下旬にかけてハワイ、ニューヨーク、ボストンにある3つのYMC A キャンプに合計29人の子どもたちが参加しました。



キャンプでは「Safety First」心身共に安全であることが何よりも重要視されます。キャンプが安全な場であるためにリーダー、キャンパーたちが思いやり(Caring)を持って人と接し、違いを受入れ(Respect)、自分の言動に責任(Responsibility)を持ち、何かが起きた時は誠実に向き合うこと(Honesty)が求められます。キャンプではこれらの4つの価値が様々な場面では伝えられています。

キャンプ中はリーダーたちが常にそばにいます。身の回りのことは一人でするよう導き、子どもたちの自立心を育てます。親元を離れた異国の地での生活、新しいことへの挑戦など、キャンプ中の全てのことが子どもたちの自信に繋がったのではないのでしょうか。自然を大切にする心や世界の人々と共生できる心、探究心、自立心を養えるこの海外キャンプに、来年もぜひ多くの子どもたちに参加してほしいと願っています。

(国際・総合教育 語学教育MD 池田麻梨子)

Y M C A 国際協力募金

世界の人人々と共に生き、
平和な地域社会を築く

「東京YMCA国際協力募金にご協力お願いします！」街頭で多くのYMCA会員、学生、子どもたちが通行人に呼びかけ、募金を集める季節がやってきました。ここ数年はコロナの影響で中止していましたが、今年は11月18日（土）に予定しています。

最近、SNSの発達により、世界の情報をアップデイトに入手できるようになりました。日本国内には外国籍の方が増え始め、国内と国外の差が縮まっているようにも感じます。「国際協力」という言葉が今の時代に使われているのか考えさせられますが、言葉の問題は別にして、YMCA国際協力募金の特徴は世界



バングラデシュ・NFPEスクール（働くこどものための学校）で学ぶ子ども

東京YMCA国際協力の活動の中で、Y M C Aの支援により運営されているNFPEスクールの4つの柱の中に「国際・総合教育事業部」があります。国

東京YMCA 国際協力街頭募金

ボランティア募集

新宿駅周辺で、人々に国際協力募金を呼び掛ける活動です。ぜひ、ご参加ください。

国際協力募金は、世界のYMCAの活動支援に用いることで、その国の人々の人生を変える大きな力となります。

今年度は下記の通り予定しています。

- 【日程】 2023年11月18日（土）※小雨決行
- 【時間】 12～16時※短い時間でも構いません
- 【場所】 J R新宿駅周辺

街頭募金の詳細はこちら



お申込みはこちら



第14回YMCAキッズワールドカップin韓国

3位入賞

サッカーを通じた国際交流

「YMCAキッズワールドカップ」は、アジア各地のYMCAの小学生が韓国に集結し、サッカーを通して交流を深める大会です。

「2020年に新しい会場になるよ！」とソウルYMCAのスタッフから伝えられた前回大会。今度は凄い所でできそう！と当時の子どもたちと思いを馳せていました。しかし、年末からコロナウイルス感染症拡大の煽りを受けて翌年キッズワールドカップは中止となり、気づけば4年が経ちました。

今回、久しぶりの開催に緊張をしている私をよそに、空港に集合した子どもたちにとって海外旅行は慣れたもので、大人たちよりも落ち着いていました。

現地の空港に到着時、K-POPアイドルが出て来るのを待つ人だかりに、「僕たちのお迎えかな！？」と胸を張って空港を出た子どもたち。会場のYMCA高陽ユースセンターはとても綺麗で、楽しそうな施設ばかり。現地スタッフの皆さんも温かく迎え入れてくれました。トランポリンなどの遊具にあふれる施設が特に気に入り、自由時間は子どもたちが毎晩スタッフにお願いをして、香港・ソウルの子どもも大人も一緒になって思い切り楽しみました。

サッカーでは、大阪YMCAのメンバー2人を迎え、連合チームで優勝を目指しました。最初は連携がうまくいきませんでした。少しずつ声が出るようになりました。皆で支え、励まし、助け合ってボールを繋ぎ、ゴールを決められるようになります。普段は、なかなかゴールを入れられなかった子どももみんなの応援と諦めない気持ちで得点を決め、感涙が頬を伝うことも。最終的には、大会を通して全員がゴールを決めることができました。残念ながら優勝こそ逃しましたが、見事3位入賞！来年こそは優勝だ！と今から意気込んでいるようです。サッカーもそれ以外の時間も、人の繋がりの大切さを再認識した5日間でした。

（江東YMCA幼稚園 米澤竜彦）



円陣を組んで気合いを入れる



総主事カフェ

東京YMCA総主事 菅谷 淳

総主事カフェにようこそ
この夏、新潟で暮らす長女が10カ月の娘を連れて2週間ほど我が家に里帰りしました。それが決まってから大慌てで家を掃除し、赤ちゃんがハイハイしてもいいように大きめのクッションマットを敷き、ガラガラと音の出るおもちゃも用意しました。孫の名前は「在（ある）。クッションを越えていろいろな所へハイハイで移動するので「アルンバ」と呼ばれていました。

孫はかわいいですね。若い頃、今の娘のように子育てに奔走していた時は子どものかわいさを堪能する余裕なんて無かったけれど、親がいてそれを手伝う立場になると違います。娘も、私たちの子育て経験やアドバイスのあって心強い。やっぱり家族のつながりは素晴らしい、ありがたいものだなあと思いました。

寝ます。それを邪魔すると大泣き。やっぱり赤ちゃんはこうでなくてはいいけません。この光景を見て私はふと、相田みつをさんの詩を思い出しました。「花はただ咲く ただひたすらに ただになれない 人間のわたし」山の谷間に咲く百合の花は誰に見られなくても、誰に褒められなくても一生懸命ただひたすらに咲いています。その姿が美しい、いとoshii、だから大切にしたいと人は思います。作り笑い、忖度、根回し、アンガーコントロール、…大人になつたら覚えることはたくさんあるけれど、それを覚えて

もいいのだけれど、ただにすること、素顔の自分になること、自分に正直になることは忘れてはならないと思います。ありのままの自分を出せなくて苦しんでいる子どもたちが気軽にYMCAに来て自分らしさを取り戻し、自分に自信を持ち、自分を愛することができるようになる居場所やプログラムを、これからもたくさん作って行ければと思います。

それにしても散々聞かされた「シナぷしゅ」のメロディが今でも頭から離れない（泣）。